

第9回 おいしい水づくり推進懇話会 ＝ 議 事 録 ＝

日時：平成22年9月27日(月)

午後1時30分から午後4時30分まで

場所：水道局幕張庁舎2階特別会議室

1. 第9回推進懇話会開会

事務局より開会宣言

2. 局長挨拶

委員の皆様には、お忙しい中またあいにくの雨の中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、日ごろ、おいしい水づくり計画の推進にご理解・ご協力いただきまして、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

皆様もご承知のとおり、先週の土曜日（9月25日）からゆめ半島千葉国体が開会いたしました。熱戦が繰り広げられておりますが、県水道局としましても、開会式、閉会式で着ぐるみのポタリちゃんの参加や、国体を記念して作りましたペットボトルの「ちばポタ」を選手の方々に配布するなど、水道水の安全性やおいしさを県内外の方にPRしております。

さて、本日の「おいしい水づくり推進懇話会」は、「おいしい水づくり計画」の各種施策の取り組みや進捗について、お客様からご意見・ご要望をいただくことを目的に平成19年7月に設置されたものでございます。今回で9回目を迎えることになりました。

特に、今年度は「おいしい水づくり計画」の4年目を迎え、「おいしい水」として設定いたしました水質項目の中期達成目標の年となっており、順調に推進しているところでございます。

本日の懇話会の議題は、昨年度当局が行いました「県水お客様アンケート」及び「インターネットアンケート」の調査結果、今年度からNPO法人に全面委託しました「水道出前講座」の実施状況、「残留塩素低減化」、「トリクロロミンの分析方法」等についてご報告させていただきます。

これらの報告に関することはもちろん、これまでの水道局の取り組み等について、委員の皆様から忌憚のないご意見やご要望をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

3. 座長挨拶

今年は大変な異常気象の中、水不足という話が出るのかと思っていたら出なかったのてどういことか聞いてみたいと思いました。9月のはじめ志賀高原に行きましたが、湿気がないぶんだけ暑く感じないというだけで、全国的には暑かったのかなと思います。

話は変わりますが、ポタリちゃんの人気がすごいと最近感じていまして、学生にも「これ何？」と聞かれ、かなり認知度が上がっていると感じています。さらに、「かわいい」という声があがるので、いい Mascot ができたと自分の子じゃないけれどすごく嬉しく思っています。

学園祭が11月にありまして、学生から、

「ポタリちゃんの大きな着ぐるみができたでしょ、呼べないの？」

と聞かれ、打合せのときに伺って見たら、大きくて運搬が大変ということでした。貸し出しを簡単にできるようにしてもらいたいと思いました。

今日はやや人数が少なく寂しいですが、少数精鋭でがんばって意見を出してもらえたらと思います。どうぞよろしくお願い致します。

4. 委員紹介・出席状況報告

5. 配布資料説明

6. 議題

「おいしい水づくり計画」に基づく主な施策の取り組みについては、配布資料により概要を説明した。

各議題の概要及び質疑・主な意見等は以下のとおり。

① 「お客様の意識調査」について

(資料-1, 2) 担当：計画課おいしい水づくり推進室

- 県水お客様アンケート調査結果
- インターネットによるアンケート調査結果

② 「安全・安心・おいしい水づくりキャンペーン」について

(資料-3) 担当：計画課おいしい水づくり推進室

- インターネット・マスメディアを活用したPR
- 浄水場見学会（冷やした水道水の試飲結果）
- 水道出前講座

③ 「残留塩素濃度の低減化」について

(資料-4) 担当：計画課おいしい水づくり推進室

- 残留塩素濃度低減化試験の実施
- 塩素多点注入設備導入の検討
- 水質自動監視装置の設置
- 塩素注入管理の見直し

④ 「クロロミンの分析方法」について

(資料-5) 担当：水質センター

- DPD吸光光度法によるクロロミンの測定
- HS/GC-MS法によるトリクロロミンの測定

7. 懇談

主な質疑・意見等は以下のとおり。

1) アンケート関係

(委員)

若年層による水道水の飲用が少なくペットボトルを選ぶ理由としては、持ち運べる便利さがあるのではないかと。おいしさだけでなく、選択肢の問題もあると思う。水道水のペットボトルもあれば買って飲むと思うし、年代による活動状況の違いもあると思う。

(委員)

インターネットによるアンケートはまだ公表されていないとのことだが、今後公表していく予定はあるか。

(事務局)

3年分まとまったので、出来れば公表していきたいと考えている。

(委員)

インターネットでは好き勝手な意見があるので、取り扱いに気をつけないといけない。

(委員)

クイズの応募件数と比較すると、アンケートに答えてくれた方は約1割と少ない気がする。

(委員)

総アクセス数から見ると非常に少ない。プレゼントと連動させれば母数は増えると思う。クイズの画面と一緒にしていると良いのでは。

(委員)

プレゼントと連動させると、恣意的になる可能性もある。当選したいからと、いい回答をするように誘導することになるのでは。自由アクセスだから余計難しい。

(委員)

20年度から21年度で全体的に下がっているということは、何かあったのかなと思う。これだけで何か言えるかというのは難しい。

(委員)

たくさんいる中で、意見を言ってくれるのはごく一部だけ。広く一般に意見を求めるならリサーチ会社に頼む。

(委員)

母数をまず確保したほうがいい。公表するためには、いろいろ調べる必要がある。

2) PR関係

(委員)

ポタリちゃんの着ぐるみの見本としてつくられたぬいぐるみを借りてきたが、このぐらいの大きさがあるとかわいい。今度携帯ストラップを作る予定ということで、こういうぬいぐるみタイプのものにしたらどうかと学生が提案していた。

もっとポタリちゃんグッズが増えると良いと思う。

(委員)

携帯ストラップをマスコットの形で作るのは大変だろうから、プレート状にしてみたらどうか？

(事務局)

今のところプラスチックを使った立体形を考えている。ぬいぐるみのものも聞いてみたが、大量生産できず単価が高くなってしまう。

(委員)

ちばポタはどこで販売しているのか。また、国体では配布するのか。

(事務局)

ちばポタは、水道局内や物産店、海ほたるなどで販売している。販売もするがPR用に配布することもある。100円で販売しているが、イベントでアンケートにお答えいただいた方にプレゼントしている。浄水場の見学会でも配るようになっている。

(委員)

チーバくんの赤とポタリちゃんの青と菜の花の黄色がとてもかわいい。

(委員)

チーバくんのイラストが入っているが、国体が終わったら販売を止めるのか？

(事務局)

今後検討するが、来年の3月まで販売を予定している。その後については、チーバくんが国体キャラクターなのでその扱い次第。

(委員)

ラジオCMはいいと思う。

(委員)

ラジオCMでちばポタが「おいしい」とアピールしているのに、その後でキャッチフレーズの「おいしくなります！ちばの水」と入ると、少し違和感がある。

(委員)

「おいしくなってきたよ」とか進行形の言葉はいかがか？

(事務局)

検討したが、このキャッチフレーズは、PRグッズだけでなく封筒や「水道のしおり」等にも印刷されている。まだ計画途中なので、計画最終年の27年度までこのままのキャッチフレーズで行こうかと考えている。

(委員)

ラジオCMで「ホームページを見てね」と言ったらどうか？

(事務局)

HP閲覧については、浄水場見学会などでお客様に呼びかけている。今後紹介の仕方を考えていく。

(委員)

懇話会以外で、あまりポタリちゃんを見かける機会がない気がする。

(委員)

着ぐるみは今までどのくらい出動しているのか？

(事務局)

イベントには8回出ており、貸し出しは2回行っている。

今後は、千葉や松戸で予定しているイベント「まちかど水道コーナー」に出す予定である。小学生が来る浄水場見学会にも出したい。

(委員)

個人への貸し出しはしないのか？

(事務局)

趣旨によって検討させていただく。大きくて目立つのはいいが、運搬がネックになる。活用についてはいろいろ考えていく。

3) 残留塩素の低減化関係

(委員)

栗山浄水場から船橋給水場まではダイレクトに水が送られるのか。

(事務局)

給水場まで専用管がある。管内では塩素はあまり消費されないが、配水池で0.2mg/Lほど消費される。その分栗山浄水場では高く塩素を注入している。船橋給水場で追塩できれば、栗山浄水場の塩素注入量を低くすることができる。

(委員)

船橋給水場に限らず他の給水場もそのシステムを導入するということか。

(事務局)

他の給水場はすでにそのようになっており、これも塩素多点注入の一つと考えられる。

(委員)

残留塩素濃度を0.6mg/Lまでは下げられるだろうけれど、さらに0.4mg/Lまで下げられるだろうかという話だが、1つに受水槽が大きな問題と思われる。

(事務局)

残留塩素濃度を水道法の0.1mg/L確保するうえで、貯水槽で0.3mg/L消費されると考えると0.4mg/Lは極限值である。シミュレーションでは0.4mg/Lを切ってしまうところが出てくるのでその対策が必要。まずは安全第一である。

(委員)

貯水槽の調査で、大口需用者にデータを提供してもらおうと、色々分かるのでは。

(事務局)

大口需用者は追塩設備を持っているので、まず心配はない。心配なのは、小さい貯水槽のほう。

(委員)

管理の届け出が必要な大きさはどのぐらいか。

(事務局)

10トン以上で届け出が必要となる。

(委員)

10トン未満は管理組合も無いようなところも多い。数はどれくらいあるのか。

(事務局)

貯水槽2万1千のうち、10トン未満は1万5千ある。

(委員)

夏場は水温が上がるので、屋上に設置された高架水槽には特に注意が必要。

(事務局)

調査では水温上昇も考慮する。

(委員)

安全第一と考え、極限值を狙う必要は無いのでは。

(委員)

0.4mg/Lというのは長期目標だが、それはともかくとして、まずは0.6mg/Lに確実に近づけてほしい。

4) クロラミンの分析方法関係

(委員)

通常はDPD法で測定して、確認にGC-MS法を使用していくことなのか？

(事務局)

現状ではそのように考えている。

(委員)

GC-MS法のほうが前処理など容易であれば、GC-MS法による測定のみを行っていくということは考えるか？

(事務局)

今までDPD法で行ってきており、急にGC-MS法のみで切り替えられるだけのデータがまだ取れていない。データを蓄積した上で検討していきたい。

(委員)

しっかり測定できるようにして、目標値を設定できるようにしていけたらいいと思う。

(委員)

今回は測定法の報告のみだったので、今後どうするのか聞きたかった気もする。

(事務局)

今までDPD法で測定していたが、臭気との関係で見ると一部相関があるが、完全にあるとは言えない。つまり、DPD法でトリクロラミンが出ていても、臭気を感じないことがある。DPD法で測っているのが本当にトリクロラミンなのか、そのあたりを明らかにしていきたい。もし、トリクロラミンでないということであれば、最終的にはGC-MS法に移行せざるを得ないのではないかと思うが、GC-MS法による測定は非常に時間がかかるので、そこを改良していきたい。

(委員)

GC-MS法だと時間がかかってしまうのか。

(事務局)

1検体ごと測定することになるので、どうしても時間はかかる。

(委員)

今、いろんなところから報告されているが、窒素は普通に生活の中にあるわけで、例えば食品に塩素を加えると、トリクロラミンの測定法でトリクロラミンではなくて有機クロラミン(タンパク質と塩素が反応して生成)が検出される事例もある。トリクロラミンの測定方法が確立されていると調べていくと、実はトリクロラミンが犯人ではない部分もあるか

もしれない。ひとつの代表的な指標として管理していることにはなると思う。

5) その他

(委員)

水道水を冷やしていたら、家族が気づかずにおいしく飲んでいた。

アンケートで若い人の水道水飲用が低い結果となったが、若い人には買ってきた水の方がおいしいという先入観がある気がする。若い人にもっとアピールする必要があると思う。

(委員)

最近の若い子は、水筒をよく持ち歩いている。

(委員)

ここ最近の水道水は、冷やしているうちはいいが、ぬるくなると後味が気になった。

(委員)

職場の30～40代の女性に聞くと、水道水を飲まない。貯水槽内でネズミが死んでいたと言う話を聞いて飲めなくなったという人もいた。今は高層マンションでも直結給水できると聞いたが。

(事務局)

本管に加圧装置ブースターをつけて、受水槽を使わず直接送水している。把握しているものでは15階建てのマンションが最も高い。

(委員)

階ごとにブースターをつけているのか？

(事務局)

全ての階というわけではない。適正圧を見て必要なところにつけている。

(委員)

水道水は安定供給が一番大事であるということ。

それから、横浜市では「水マイスター」という制度がある。水道出前講座では今のところ受講修了証だが、ネーミングに工夫してみてもどうか。

あと、どういう人がホームページを見ているかアクセス解析を行ってみてもどうか。

8. その他

(事務局)

次回の開催は来年の3月上旬を予定しているが、改めてメール等で連絡する。

(了)